

消費者ネットワーク

2005年3月1日

第93号

全国消費者団体連絡会
発行責任者 神田敏子

TEL: 03-5216-6024

FAX: 03-5216-6036



消団連とこのごろ



「服育」という言葉を聞いた。中高生の服装を何とかしたいという制服メーカーが、5年前から始めた出前講座である。学校に出向き、ファッションの専門家がビジュアルに、分かりやすくT.P.O.について説明する。「ベッカムはGパンでは腰パンをするが、スーツではしない。ボタンもきちんとはめているでしょ。」と言って、腰パンとスーツ姿の素敵で格好いいベッカムを映し出して見せる。女の子に、「足で一番細いところはどこ?」と聞いて「足首」と答えさせ、超ミニスカートとルーズソックスがいかに足を太く見せているかを科学的に示す。といった具合に、やり取りしながらどうしたら自分を美しく見せることができるかを語る。更に、流行の埴輪ルック（スカートの下にジャージ）が、社会からどのように見られているかなど、T.P.O.を中心に据えた話を展開していく。

参加した生徒たちは、ニコニコ顔で「楽しかった」「ためになった」と答えており、その後、実際に大きな変化が現れるのである。ロックバンドの部活動の後、それまでは、ハデハデな服装のまま帰宅していたが、学生服に着替え、ボタンもきちんと閉めるようになった。そして「こうすることが気持ちいいと思えるようになった」とその男子生徒たちはいふ。更に驚いたことに、授業を受ける態度にもメリハリがつけられるようになったというのである。こうした現象はここだけのことではない。全国でもかなり効果を挙げているらしい。

ここで大切なことは、専門家が生徒を一人前に扱い、科学的にきちんと説明し、一緒に考えあうところであろう。これはリスクコミュニケーションにも通ずるものである。専門家や行政が「安全である」と一方的に示しても、それだけでは信じてもらえないどころか、不信感さえ抱きかねないのと同じである。

今、アメリカは牛肉の輸入再開問題で、日本がなかなかゴーサインを出さないといって、報復措置を考えているという。審議を尽くし、リスクコミュニケーションを重ねて結論を出そうとしている日本に対し、このような圧力はもってのほかである。ましてやアメリカは、リスクコミュニケーションが進んでいる国であると、日ごろから言っているのである。これでは中高生にも到底通じる話ではない。

もくじ

消団連とこのごろ	・・・p.1
BSE国内対策の現場、と畜場2ヶ所を視察してきました	・・・p.2
どうなる? どうする? 検証! 独占禁止法改正案 とことん討論第2弾を開催	・・・p.4
内閣府国民生活局と 「消費者基本計画」(素案)について意見交換会を開催しました。	・・・p.5
簡単便利の落とし穴...電子マネーは保護されているの?	・・・p.6
家庭電話から携帯電話へは「00××」が安かってホント???	・・・p.7
21世紀は環境の世紀	・・・p.8
CIが、ISO/SRワーキング・グループへの検討草案に対するコメントを発表しました	・・・p.9
会員団体の活動紹介	・・・p.11
お知らせ・編集後記	・・・p.12